

クロモジにおける年枝別の精油分布について

福島県林業研究センター 森林環境部

1 部門名

林業—緑化—資源利用

2 担当者名

岡野達也

3 要旨

本県では精油の原材料としてクロモジ採取が南会津地域を中心に行われ、精油採取の効率化が課題となっている。これまで精油の大部分が枝葉に存在することを明らかにしたが(参考文献①)、枝葉における詳細な精油分布は不明であった。そこで、枝葉における年枝別の精油量割合を調査した。その結果、精油量割合は当年枝および前年枝で高く、そこから枝齢が進むにつれて低下していることが確認された。

- (1) 南会津町の試験地において、クロモジを 9 個体採取した。主軸および一次側枝を、芽鱗痕を目安として年枝ごとに切り分け(図-1)、精油抽出を行った。
- (2) 先端～6 年枝まで(平均長 127.1cm±27.9)における精油量割合を年枝別に算出したところ、当年枝および前年枝で割合が高く、枝齢が進むにつれて低下する結果となった(図-2)。
- (3) 今後は、現場での採取労力や採取後の枝葉の再成長等を考慮して、採取年枝や採取間隔を検討する予定。

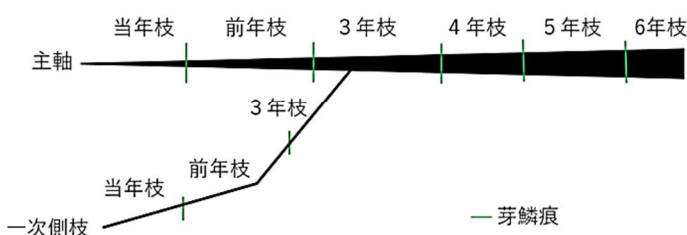


図-1 枝葉における年枝による区分

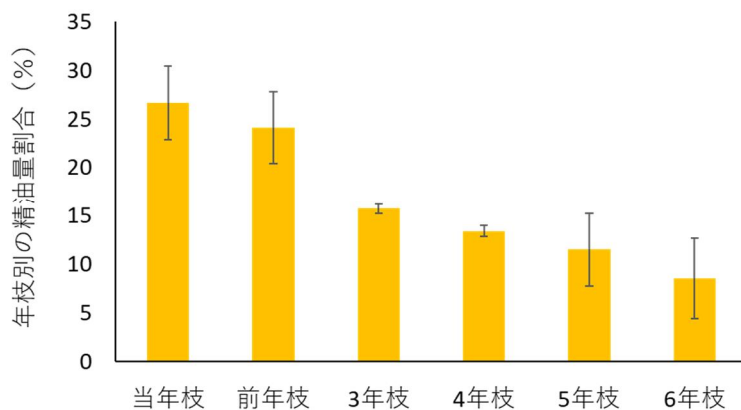


図-2 年枝別の精油量割合*

*先端～6 年枝までの精油量を 100%とした場合の、各年枝に含まれる精油量の割合

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 6～8 年度
- (2) 研究課題名 クロモジの持続的利用技術の実用化に関する研究

5 主な参考文献・資料

- (1) 大高ら,クロモジの部位別の精油収率および精油量割合について,東北森林科学会誌, 29 (1) p.9-13 (2024)